

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	慶應義塾大学				
取 組 名 称	ユビキタス社会の問題発見解決型人材育成				
取組学部等	環境情報学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21124	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	専門基礎	ICT		FD・SD	
キ ー ワ ー ド	問題発見解決型, 教育研究環境支援, 教育効果評価, ユビキタス体験教育環境, 遠隔コラボレーション教育環境				

<選定理由>

この取組は、慶應義塾大学環境情報学部の特性を発揮した次世代の大学教育技法の開発という観点で、斬新かつ意欲的なものとして評価できる。IT技術を活用して、講義以外、大学以外の日常生活のあらゆる場を学習環境として活用していく可能性を広げるという試みは、きわめて新鮮である。GPの支援を得て実施される取組として、今後、この取組の成果が広く公開され、他の大学での活用の道を開くことができれば、大学教育のみならず、いろいろなレベルでの新教育手法として意味あるものになると思われる。

ただし、この取組が、学生の具体的な活用をどこまで期待し、学生のどのような資質向上を通じて「問題発見解決型人材育成」に繋げるのかという点については、やや具体性を欠くことも事実である。取組実施に当たっては、学生の学習成果の観点での到達目標を具体化し、検証を通じて着実な成果をあげることを期待する。

取組の概要【1 ページ以内】

本取組は、グローバルなネットワーク社会、ユビキタス社会（場所、時間、環境、状況に応じて動的に情報が交信される社会）における問題発見解決型人材育成のための教育の質的向上を目的として、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)環境情報学部を中心とし、SFC の双子の学部の一つである総合政策学部と共に展開し、その成果の大学教育全体の質的向上への波及を目指すものである。

SFC は、1990 年の開設以来、問題発見解決型の教育・研究に取り組んできた。さらなる問題発見解決型教育の具体化のために、2007 年度においてカリキュラムを改定している。本取組は、これらを踏まえ、現在急速に展開しているグローバル・ネットワーク、ユビキタス社会において求められる問題発見解決のために、グローバル・ネットワークおよびユビキタス・情報システムによって新たに可能となる実生活空間での動的な問題発見解決環境および遠隔地間での協調的問題発見解決環境を通常の講義と組み合わせることで構築し、実践的に活用することにより、高度なプロフェッショナルにとって必須な実践的・国際的コラボレーション能力をもった問題発見解決型の人材育成を実現する。

本キャンパスで実践されている教育研究活動は、教員・職員・学生間での協働作業およびそれぞれの活動を支援する教育研究環境によって支えられている。この教育研究環境をベースとして、本取組では、1)教育研究環境支援システム(SFC&SFS: Site&Faculty&Staff: 特許出願中)のリアルタイム性を拡張した「SFC&SFS3.0」を構築し、2)即時的な教育効果評価・改善のためのFDとして「SFC アゴラモデル」を確立し、3)新たな知識・技能をいつでもどこでも実践的に活用できる「ユビキタス体験教育環境」を構築し、4)ネットワーク上での新しい「遠隔コラボレーション教育環境」を実現する。

1)リアルタイム教育研究環境支援システム「SFC&SFS3.0」

SFC&SFS3.0 を利用した、リアルタイムでのシラバス公開、授業調査、授業配信、課題提出、履修者管理、ディスカッションルームの設置などを実施し、教員・職員・学生間の講義内容の共有と対話的なリアルタイム情報収集・交換を行う。

2)即時的な教育効果評価・改善のためのFDとしての「SFC アゴラモデル」

異分野の教員間の討論の場としてある従来の「アゴラ」制度を拡張し、教授法・研究法を検討するための「教育・研究アゴラ」と、SFC&SFS3.0 に蓄積された授業評価結果の分析をする「評価・点検アゴラ」を設置することで、学期進行中における授業改善を行う。

3)新たな知識・技能をいつでもどこでも実践的に活用できる「ユビキタス体験教育環境」

利用者の意向と状況に応じて、その時、その場でもっとも必要と思われる教材を自動的に学習者に配信する学習支援システムを構築することにより、学生が講義で得られた知識・技能を実生活空間で実際に活用・追体験できるような“生活空間における実践的体験学習”環境を実現する。

4)ネットワーク上での新しい遠隔コラボレーション教育環境

遠隔地間で共通の教材（オブジェクト、ドキュメント）をサイバースペース上の中心に配置し、双方の操作・発話を対話的かつ直接的に参照、共有、操作、創作するコラボレーション型教育環境システムを構築する。この「遠隔対話教材共有・操作・創造システム環境」による実践的体験活動を通じて、学生が講義において学んだ内容・技術を、学生個人の知識として留めるのではなく、社会における実際の“ものづくり、内容分析、生産的活動のための対外的コミュニケーション能力”として発展させ、育成することが可能となる。

これらの取組を基礎として、本学の先導により、新しい高度コミュニケーション能力を有する人材育成環境を、国内外の教育研究機関との間に構築し、その質の高い教育環境を社会へ広く展開する。